

平成28年度 高松市病院事業決算の概要について

市民病院事務局経営企画課



1 平成28年度収益的収支の状況

(単位:百万円)

生きる力を応援します

区 分		市民病院	塩江分院	香川診療所	全体
収益	医業収益	4,033	592	218	4,843
	うち入院収益	2,580	337	—	2,917
	うち外来収益	993	240	200	1,433
	うち一般会計負担金	206	0	0	206
	医業外収益	952	226	95	1,273
	うち一般会計負担金	784	214	91	1,089
	附帯事業収益	0	15	0	15
	特別利益	177	12	10	199
収益合計		5,162	845	323	6,330
費用	医業費用	5,678	771	292	6,741
	医業外費用	158	21	7	186
	附帯事業費用	0	27	0	27
	特別損失	2,698	1	1	2,700
費用合計		8,534	820	300	9,654
純損益		△3,372	25	23	△3,324
経常損益		△852	14	14	△824

※税抜

※特別損失には、市民病院の減損損失2,672百万円を含む。

※端数処理の関係上、合計と一致しないものがある。

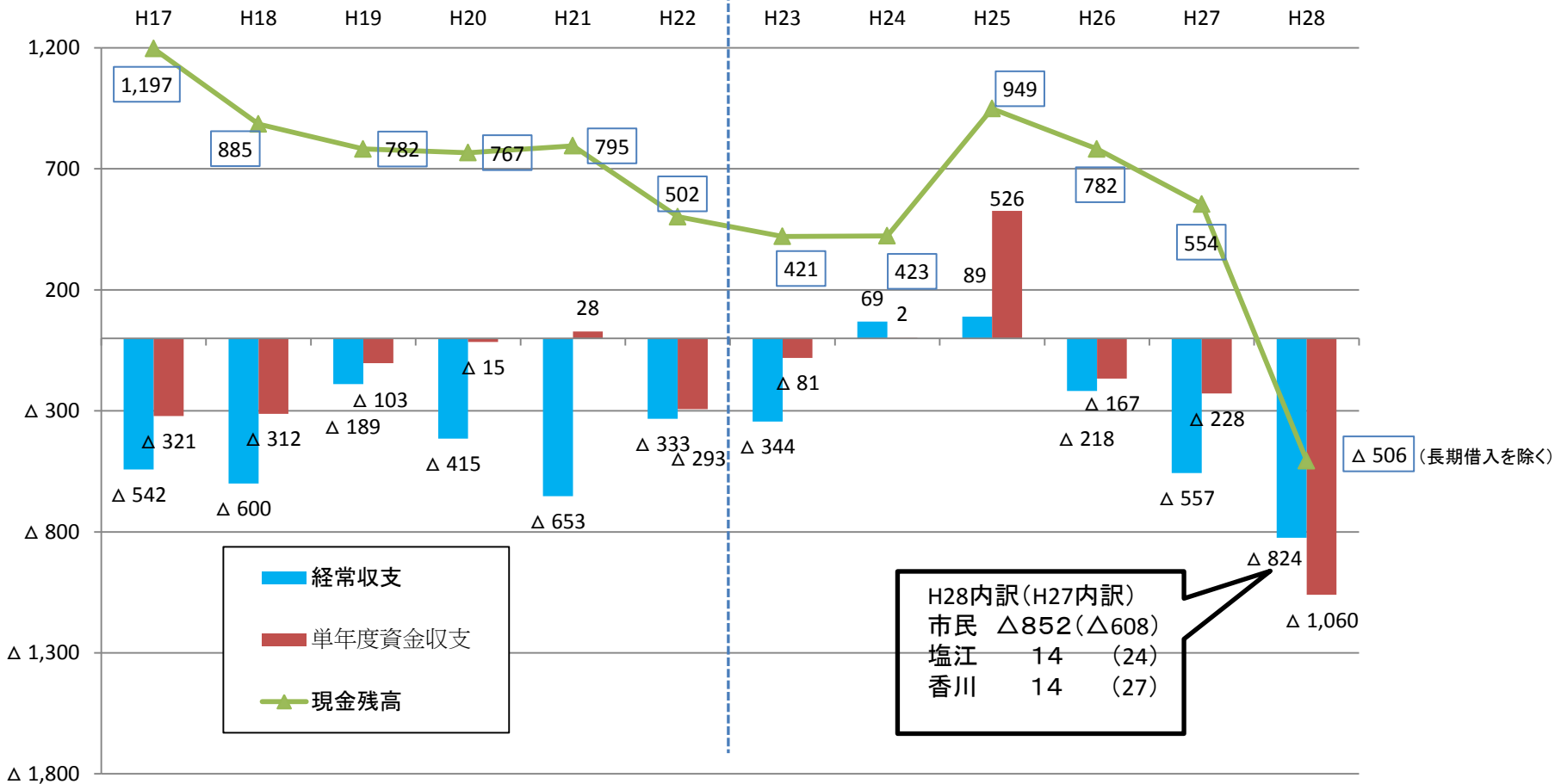


2 年次決算の推移（3病院全体）

地方公営企業法
全部適用
(23.4.1~)

(単位:百万円)

生きる力を応援します

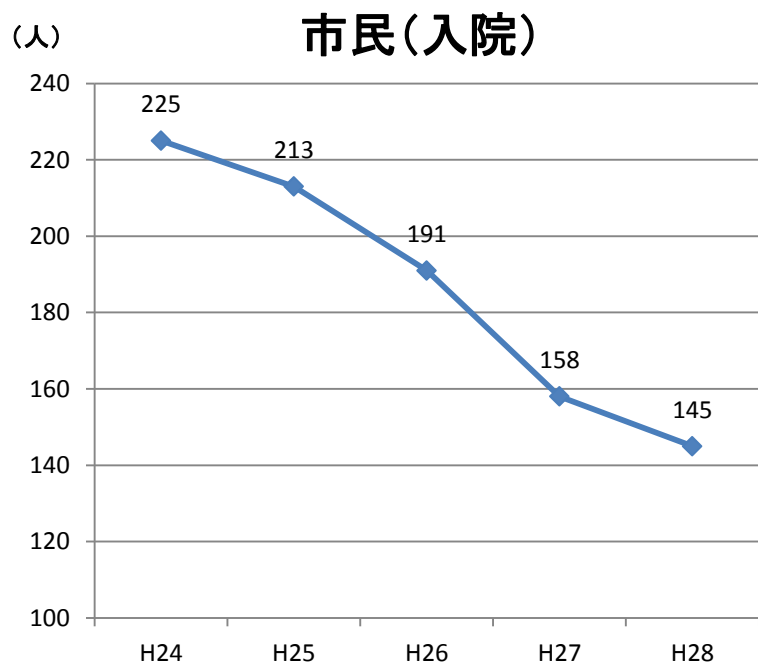


※H28に単年度資金収支が△1,060百万円となった主な要因
→医療情報システムの支払(△400百万円)、収益的収支(△550百万円)



3-1 患者数（1日あたり）の推移 ア 入院（市民・塩江）

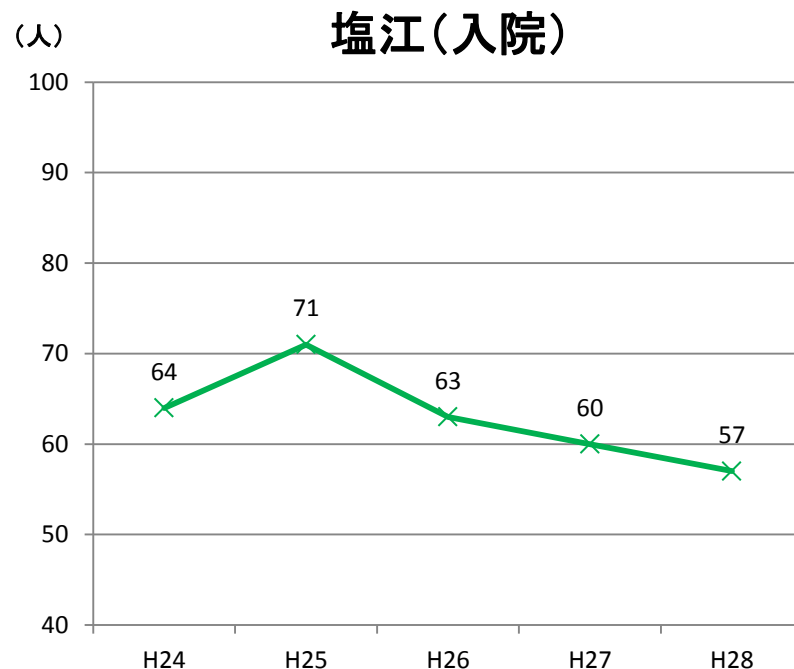
生きる力を応援します



【分析と課題】

患者数が減少した主な要因として、医師数の減少(H24末:45人、H28末37人)と周辺医療機関の新築・改築等の影響があげられる。

患者数の増加に向けて、医師確保(特に循環器医師)と医師の労働生産性の向上が課題である。



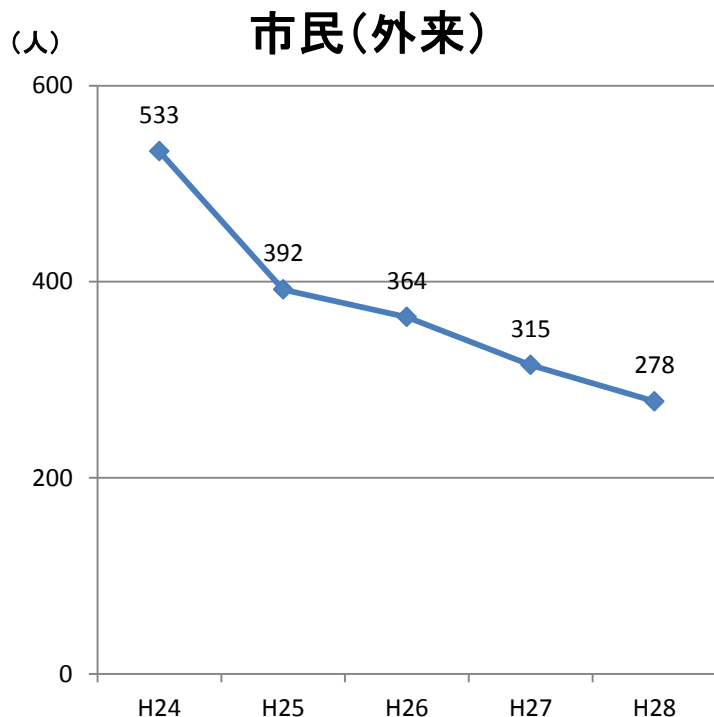
【分析と課題】

患者数は、わずかながら減少傾向にあり、塩江地区住民の減少や入院患者の施設入所などが影響しているものと考えられる。また、在宅復帰機能強化加算を取得し、重度の患者を受け入れやすい環境を整備しているものの、その効果がでていない状況であり、今後も、大幅な患者数の増加は見込めないが、引き続き、「地域まるごと医療」の実践に努める必要がある。



3-2 患者数（1日あたり）の推移 イ 外来（市民・塩江・香川）

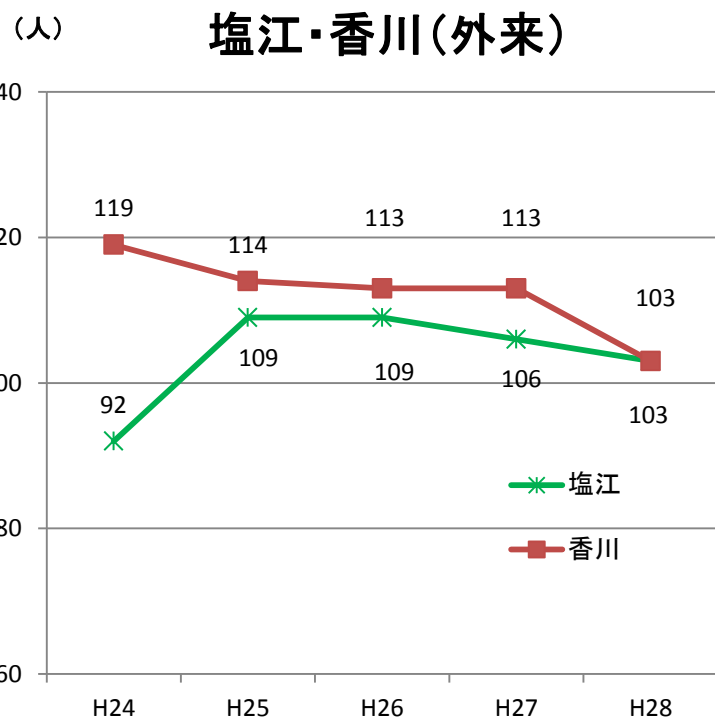
生きる力を応援します



【分析と課題】

患者数が減少した主な要因として、地域の「かかりつけ医」との機能分化を推進していることがあげられる。
(初診患者への別途負担引き上げ:H24.4 1,050円 →2,100円)

引き続き、機能分化を推進しつつ、患者数を増加させることや、医師の労働生産性の向上が課題である。



【分析と課題】

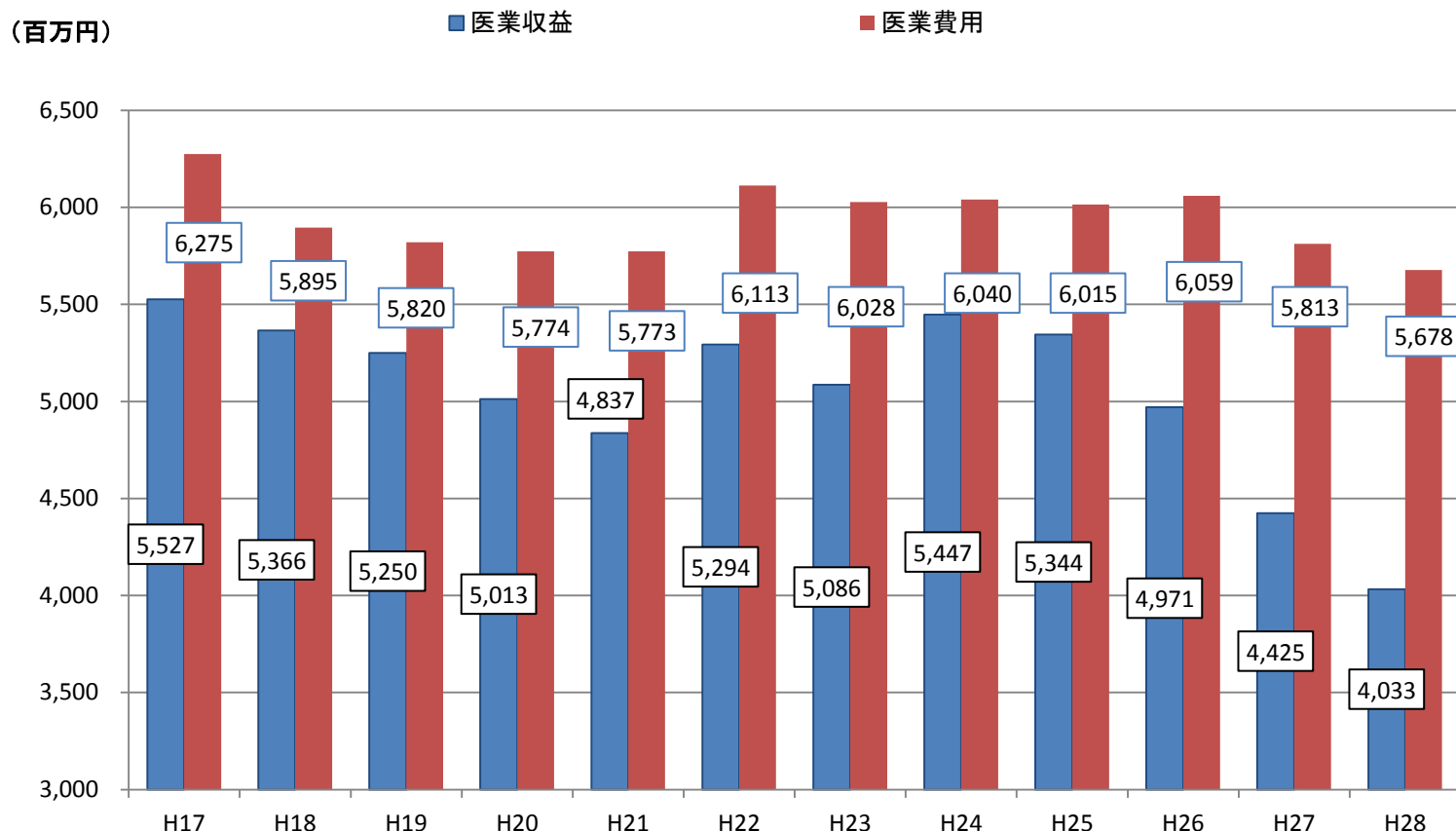
塩江分院、香川診療所ともに患者数は、わずかながら減少傾向にある。

今後も、大幅な患者数の増加は見込めないが、引き続き、塩江分院は、訪問看護にも注力するなど、「地域まるごと医療」の実践を、香川診療所は、新病院との統合を見据える中、「住民参加型の医療」の提供に努める必要がある。



4 医業収益・医業費用の推移

生きる力を応援します



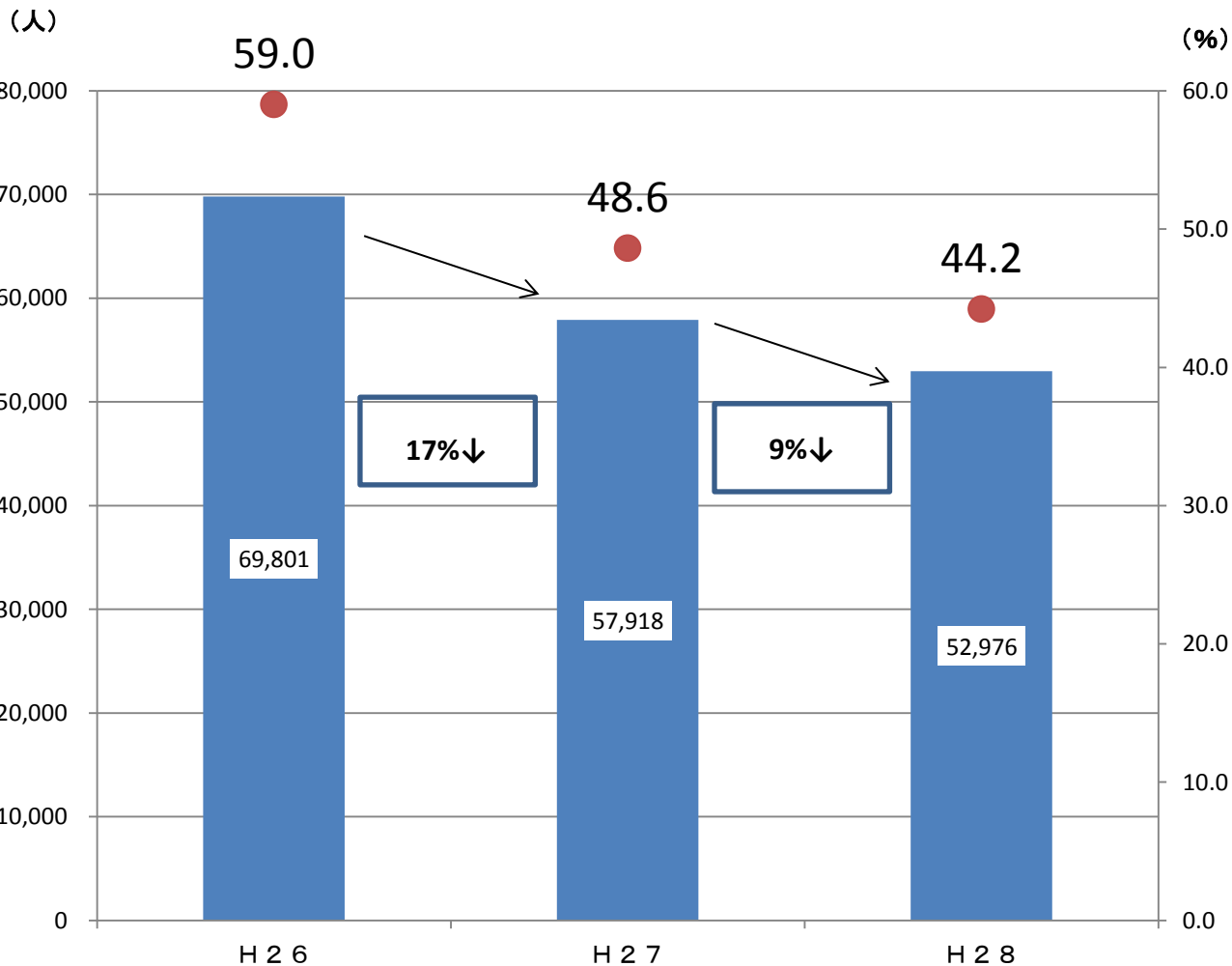
【分析と課題】

入院・外来患者数の減少に比例して、医業収益も減少している。一方、医業費用は、人件費や施設維持管理経費等の固定費の割合が大きく、これまでも、管理経費の削減などに努めていること、また、人材育成のため、研究研修費を一定程度維持している現状から、更なる費用の抑制は難しい。



市民病院

5 入院患者数と病床利用率の推移



生きる力を応援します

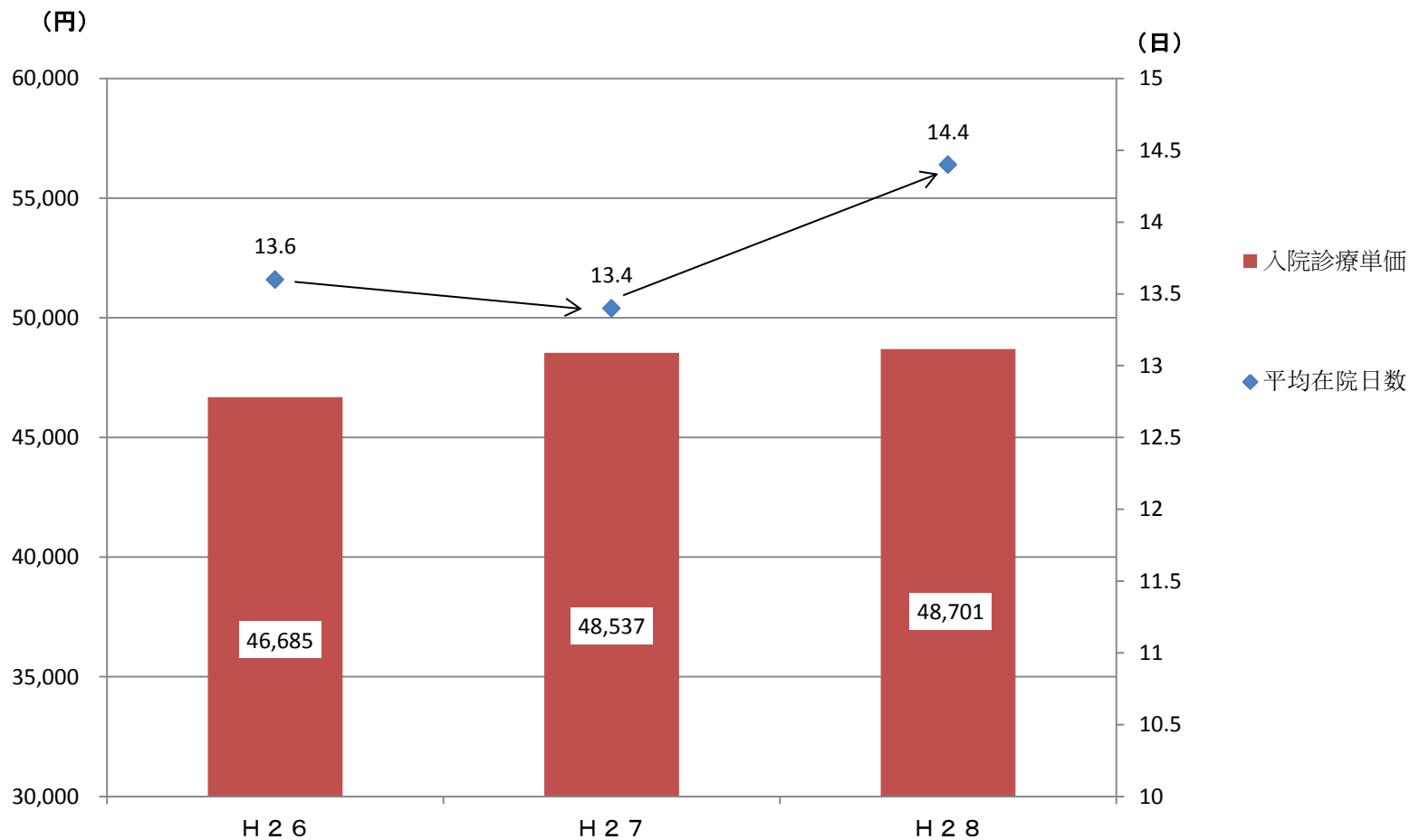
入院収益
H27 約28億1,100万円
H28 約25億8,000万円
△2億3,100万円

【H28分析】
 $\Delta 13人(1日当たり入院患者減少数) \times 48,701円(診療単価) \times 365日 \doteq \Delta 2億3,100万円$



6 入院診療単価と平均在院日数の推移

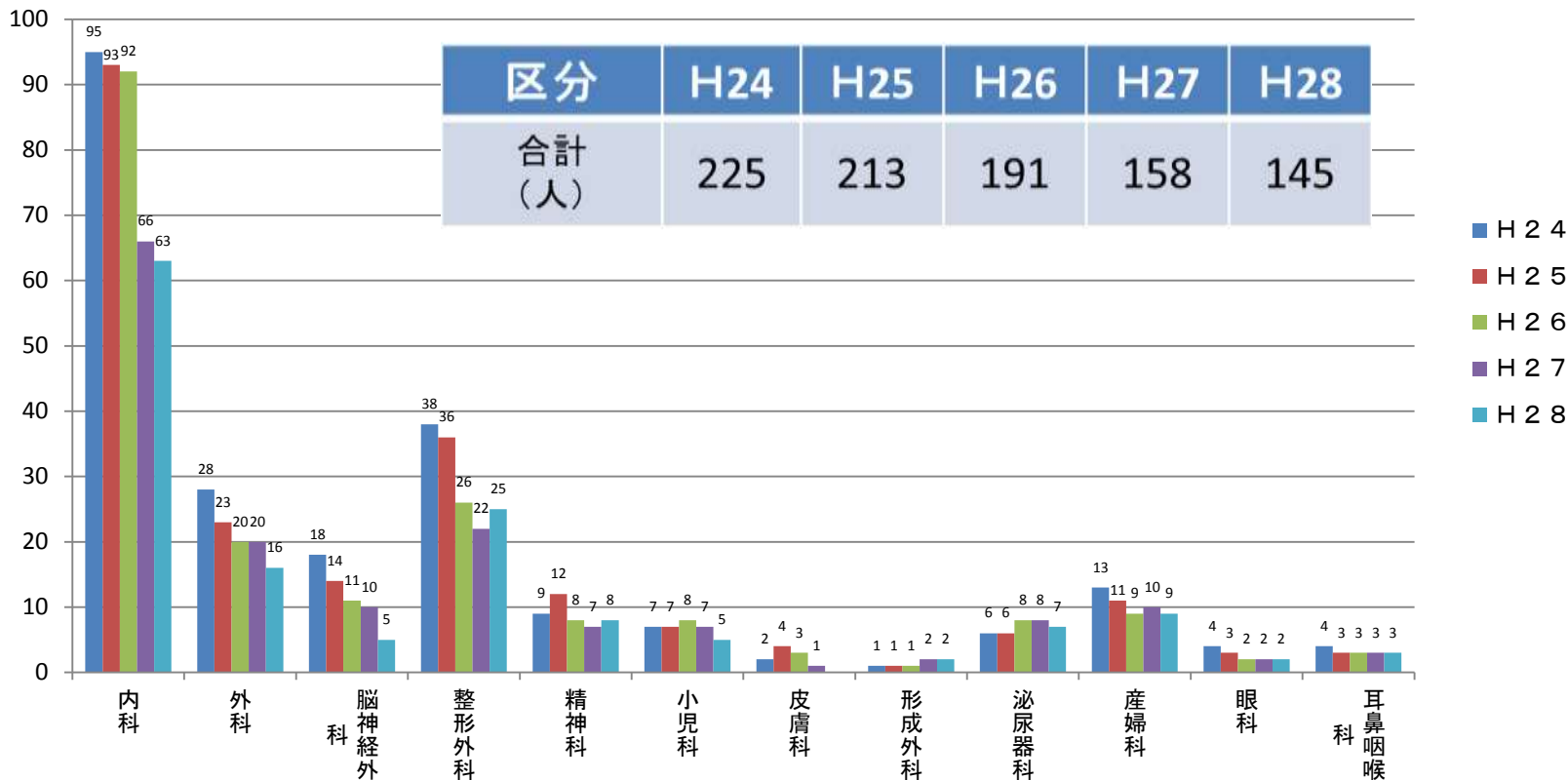
生きる力を応援します





7 診療科別1日当たり入院患者数の推移

(人)



生きる力を応援します

【分析と課題】

H28について、入院患者数に大きな割合を占める「内科」「外科」の患者数が減少する一方、整形外科は、徳島大学による「脊椎外来」の開設などにより増加に転じた。

総入院患者数の回復には、内科患者の獲得が必須である。

※放射線科、麻酔科等は計上していない。

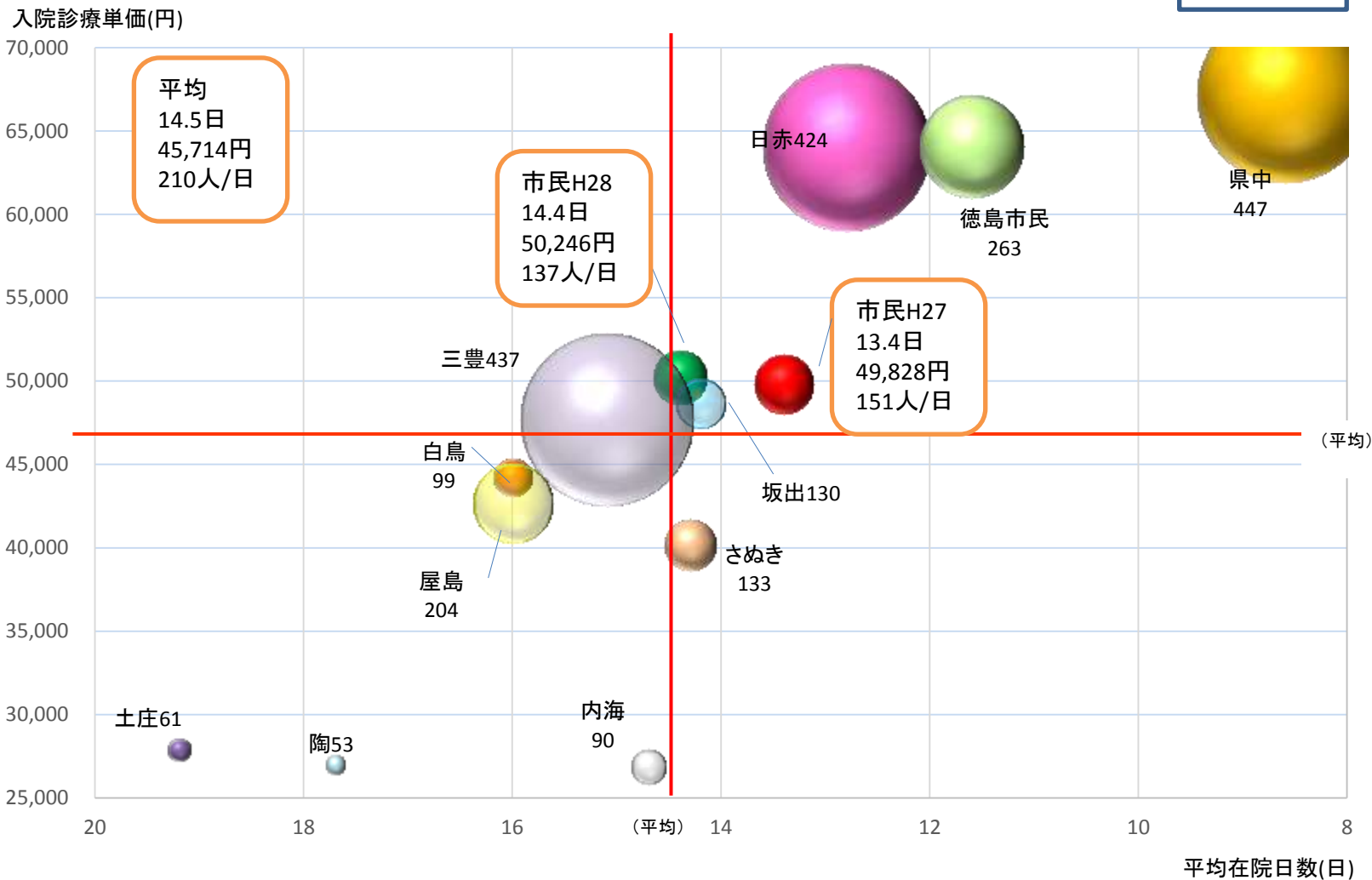
※内科は、呼吸器内科、消化器内科及び循環器内科を含む。

※外科は、呼吸器外科を含む。



市民病院

8 入院診療単価と平均在院日数（H27年度）



生きる力を応援します

※ 円の大きさは、患者数に比例している。

※ 一般病床のみの数値

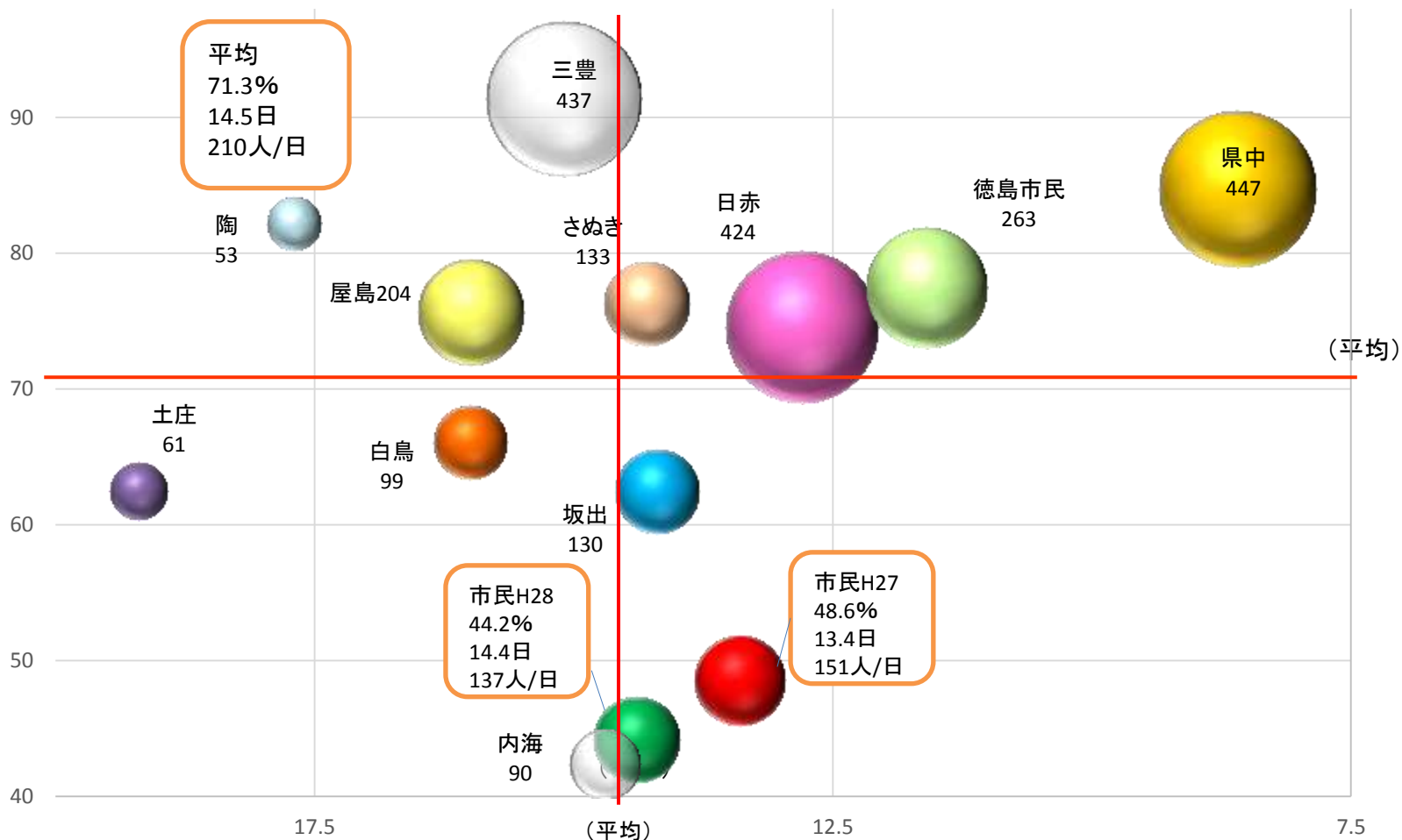


市民病院

9 病床利用率・平均在院日数(H27年度)

病床利用率(%)

生きる力を応援します



※ 円の大きさは、患者数に比例している。
 ※ 一般病床のみの数値

平均在院日数(日)

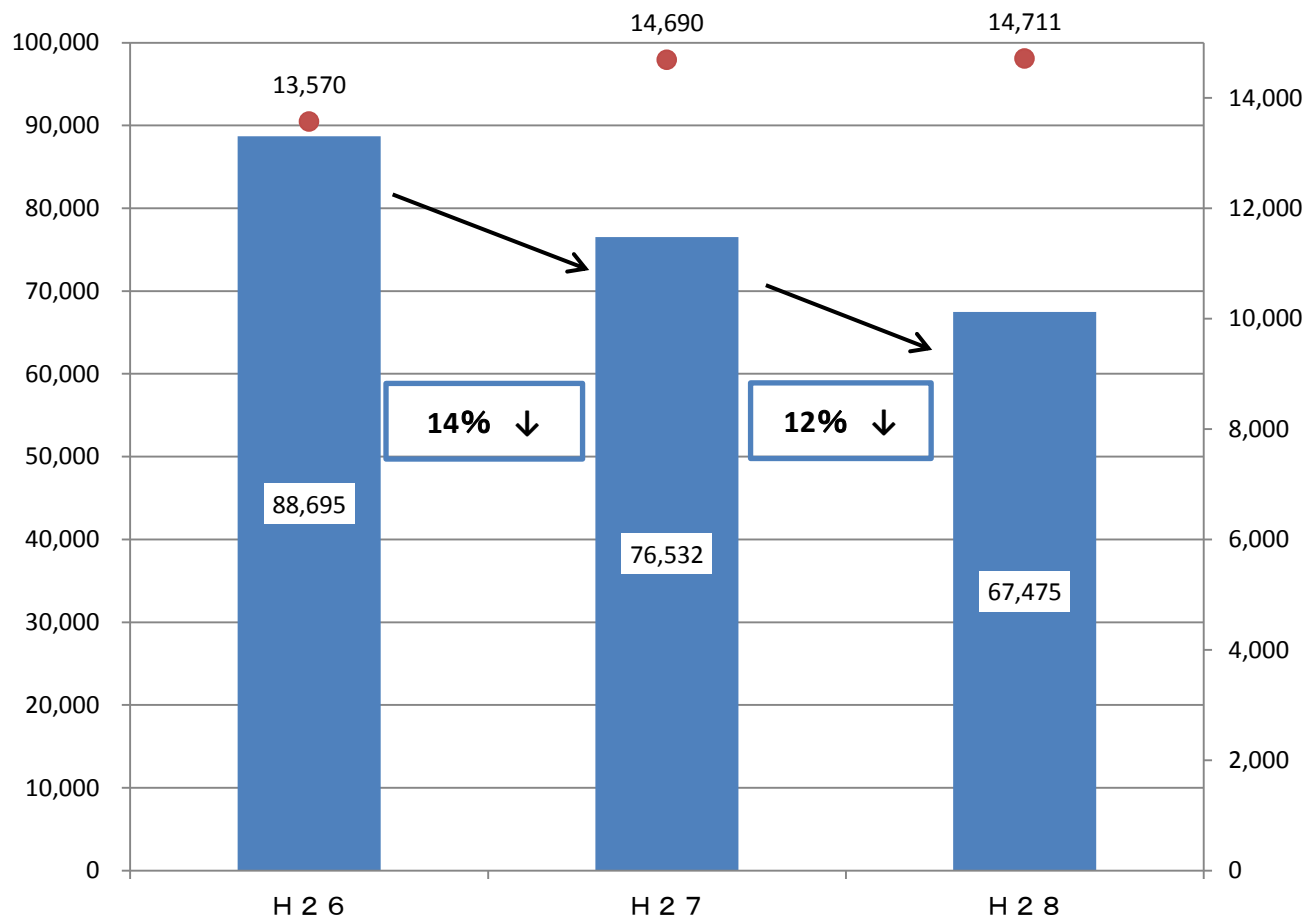


市民病院

10 外来患者数と外来診療単価の推移

(人)

(円)



生きる力を応援します

【H28分析】

$\Delta 37人(1日当たり外来患者減少数) \times 14,711円(診療単価) \times 243日 \doteq \Delta 1億3,100万円$



市民病院

1 1 医師1人1日当たり入院患者数(H27年度)

≪300~399床≫

生きる力を応援します

